

Factors associated with the development
and remission of allergic diseases
in an epidemiological survey
of high school students in Japan.

出典 Am J Rhinol Allergy. 2015 Mar-Apr;29(2):94-9.
(<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/25785748>)

著者 Tokunaga T 他

調査地域 福井県

調査時期 2012 年

調査対象 15～18 歳（高校生）

依頼数 21802 人

回収率 89.3%

診断方法 その他の調査票

有症率 19.2%

調査概要 アレルギー性疾患の発症と寛解の関連要因を調査した論文。
何らかのアレルギー性疾患を有する割合は約 40%で、アレルギー性鼻炎は
発症率が高いが寛解率が低く、幼児・出生期に発症リスクが高い。